

大井九条の会

大井九条の会
事務局連絡先
83-2358 二上

12月8日の定例会では

開催日は、83年前の開戦の日でもあるので、開戦時の日本の状況について学習し、11月24日集いの反省と、今後の活動について話し合いました。

当日は平岡さんからは生々しい空襲体験をお聞きし、加賀谷さんの手記を大石さんが朗読しました。お二人の手記は参加者のみなさんに配付いたしました。参加者は21名でしたが、その分、II部では車座になり、今までにない話し合いができたかと思えます。
集い終了後の反省会では、今後とも人との絆を大切にこうした活動を続けることが重要と話し合われました。

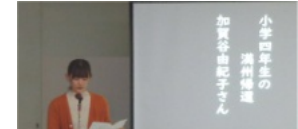
11月24日「平和への思いを語る会」好評でした



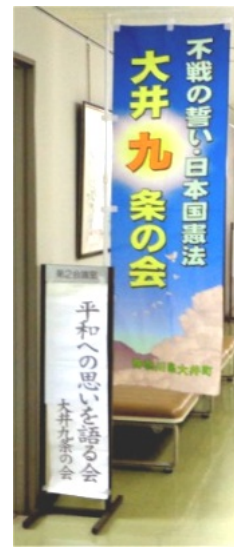
悲惨な
甲府大空襲を
話す平岡さん



ふるさとなどの掛け演奏



加賀谷さんの満州からの
帰還を話す大石さん



II部では車座で話し合う

次回定例会
・1月13日(月) 14時
・生涯学習センター第3会議室

参加者のご感想

◎予定が重なってしまい、遅くなりまして、ごめんなさい。
・平和とは？ わかりやすく論理的に話すのは難しい。書くように話し、話すように書け、と言ったのはどなただったか。自分の生活がつつがなく送れると、人のことも考えられる。
・兵庫県知事選をみていて、これではロマンス詐欺にも、投資にもころっとだまされるなと思った。何と単純なのか。客観性がまるでない。
・先日、届けていただいた会報の、二上さんが紹介されていたガザの詩人のこと、良かったです。
【60代】
◎平岡さんはいきいきと体験談を語ってくれてよかったです。子どもの頃、飛行機が恐かったなどと思えないほど元気だった。加賀谷さん本人の話が聞けなかったのは残念だったが、満州での話、身にしみた。【40代】
◎実際の声、体験談をなかなか聞く機会がないので良い会でした。第2部もみなさんのお話しを聞けてよかったです。【40代】
◎皆、それぞれの場で、平和を望んでいると思います。80代】

日本国憲法 第二章 戦争の放棄
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

うお話しをされた。とても衝撃的だった。今で言うマインドコントロールのようなものであろうか。
紙しばいや絵本の読み聞かせをしていると、子どもたちは目をキラキラさせて、お話の世界にどんどん入っているのがよく分かる。戦前・戦中と情報の乏しい時代、子どもや、とりわけ若い学生などは、それによって戦争や戦うこと、様々なことをお国のために捧げることが正義である、と植え込まれたかもしれない。
帰宅後、気になって調べてみたところ、そのような紙しばいは、第二次世界大戦中「国策紙芝居」として全国に普及していたことがわかった。地域のリーダー的な人物が紙しばいの上演を担ったそう、子どもの集いのほか隣組の会合などで大人も対象に上演された。農村部では一回の貸し出しで千数百人が観覧し、「娯楽」として歓迎された面もあったようである。

真珠湾攻撃で戦死した軍人の母を賛美する「軍神の母」、食料増産を訴える「お米と兵隊」…。紙しばいは映画などに比べて簡単に上演することができ、政府や軍部のプロパガンダとしても幅広く利用されたとのこと。戦争は、本来娯楽のための紙しばいも、戦うための道具にしまったのだ。
なんて悲しい使われ方であろうか。日本は来年で戦後80年を迎える。最近では、「新しい戦前」とも言われ、子どもたちにこのまま平和な未来を渡せるのだろうか、危機を感じている。

今も世界のあちこちで、紛争・戦争が起きて、明日の生命の保証もない恐怖の中、懸命に生きている人たちがいる。80年もそんな思いをせず生きてきた私たちは、なんて幸せなんだろうか。



紙しばいのような娯楽を、何にも縛られず、何の不安もなく心から楽しめる、そんな日が一日も早く彼らにやってくることを願いたい。そして日本が、いつまでも平和で、子どもたちに笑顔で読み聞かせのできる、そんな国であるように、と心から思う。

山崎もも子

紙しばいから 平和を考える

私は子育てを始めてから、幼稚園や学校の子どもたちに、読み聞かせボランティアを続けている。もう10年ほどになるだろうか。読み聞かせをする絵本や紙しばいは、子どもの年齢や好みを考えたり、学校ではその時に学んでいることに因んだものや、行事に合わせて選んでいる。図書館に行つてそれらを探すと、作業は、難しいがとても楽しい時間でもある。

先日、縁あって「紙しばい読み聞かせ講座」に参加した。講師は童心社の紙しばい編集者の男性で、紙しばいと絵本の読み聞かせの違いや、紙しばいの実演など、初めて知ることも多く、とても有意義な時間を過ごした。なかでも、国内で紙しばいを作っ

ている出版社や専門の編集者の数が想像していたより、はるかに少ないということに驚いた。紙しばいは、日本独自の文化財で、今はベトナムやヨーロッパなどでも人気を博しているそう。講座序盤に紙しばいの成り立ちの話になった時、講師が「戦時中は、こうやって狭い空間に人を入れ、グツと話しに引き込むようにして戦意高揚をはかる紙しばいが行われた。そもそも紙しばいは子どものためのものである。そのようなことに紙しばいを使ってはいけない。」とい